

## (別添) その他意見

### 【基本構想】

該 当 箇 所	意 見 内 容
基本構想全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙に「みやたん」のイラストがあると、子育て世代の目に留まりやすくより多くの方が手に取ってくれるのではないかと。</li> <li>・市外の方や、外国から移住した市民にも理解できる端的な言葉で「文教住宅都市とは」の説明を冒頭に入れることを検討されたい。</li> <li>・「文教住宅都市」を前面に出すのであれば、「文教住宅都市西宮の歌」を紹介しても良いのではないかと。</li> <li>・3つの都市宣言について、文教住宅都市宣言以外のものはあまり記述されていない印象を受ける。どこかに記述することを検討されたい。</li> <li>・増加する外国人住民が行政支援にアクセスしていくこともあるということを考えれば、振り仮名があった方が読みやすい。</li> <li>・外国人に読まれることも想定し、項目番号は「ア」「イ」「ウ」ではなく、数字にすることを検討されたい。</li> </ul>
序論 1. 総合計画とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ページの3行目に、第4次総合計画中間改定の8ページにある文章を引用することを検討されたい。</li> </ul>
2. 時代認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4ページの2. ①では、「過度な人口偏在は生活様式や文化の多様性の喪失につながります」とあるが、35ページの図22では市の中央部に都市核を集中させている反面、地域核が孤立し連動が見られない。</li> <li>・これまで自治会組織は戸建て住宅を中心に活動してきた。集合住宅が増え、その中で管理組合ができると、自治会に加入なくなり、集合住宅の住民は地域と疎遠になるという問題が起きている。隣近所との付き合いがない一人暮らしが増えているというアンケートの分析は実際そのとおりであり、そこをどのように補っていくかという取組を検討されたい。</li> <li>・5ページの⑥で、ICT等用語解説を必要とする言葉を多く盛り込むのではなく、例えば「ICT」は日本語で「情報通信技術 (ICT)」と表記することを検討されたい。</li> </ul>
3. 西宮市の現状と課題 (2) 人口の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口推計については市域を碁盤の目のように細分化して人口偏在にとらわれることはなく、第4次総合計画のように支所単位ぐらいの把握でよいと思う。</li> </ul>
3. 西宮市の現状と課題 (4) 経済・財政状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わが国の経済状況は、人々の暮らしやまちの活力に直結します。」としながら、経済状況の記述は8行のみで、後段は財政状況についての記述であり、経済状況を説明の説明としては弱いので、検討されたい。</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
3. 西宮市の現状と課題 (5) 市民の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24 ページの表3「西宮の将来像」について、塩瀬、山口でも「徒歩や公共交通でお出かけしやすいまち」を望む声が多い。北部問題についてはきちんと記述されたい。</li> </ul>
3. 西宮市の現状と課題 (7) まちづくりの主要課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「①住宅都市としての価値を未来に引き継ぐ」のタイトルに「文教住宅都市」の言葉を用いていないが、西宮の特徴は単なる住環境だけでなく、「文教」と「住環境」が相まってはじめて他に誇れる「文教住宅都市」が形成されているのではないかと。</li> <li>・まちづくりの主要課題としてあげられている6項目の中で、障害福祉に関する記述がないように思える。市民にとって理解しやすい共生のまちづくりを検討されたい。</li> <li>・「③自助と共助（互助）の考えで地域の絆を強め、地域共生の社会に向かう」で記述されている「我が事」「支え手側」「受け手側」は、「ニッポン一億総活躍プラン」、「地域力強化検討会 中間とりまとめ」の中に出てくる言葉であり、そのまま記述するのが良いのか検討されたい。</li> </ul>
将来像全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチフレーズの例として、これからの社会というのは、自分たちがつくるまちというかたちで、市民もやります、行政もやります、みんなでやりますということが分かる表現を検討されたい。西宮市が住みやすいまちであるためには、文教住宅都市として築いてきた地域間のつながり、ネットワークが薄れてきているということに対して、どう立て直していくのかということが、これから10年の課題になってくると思われる。共助や共助を促進するような官の仕組みを前面に打ち出していけば、基本構想の6項目とそれぞれ絡んでいくと思う。</li> <li>・第4次総合計画の時は「ふれあい 感動 文教住宅都市・西宮」というキャッチフレーズを付けたが、昭和38年の文教住宅都市宣言以降、総合計画の基本目標は「文教住宅都市を基調とする個性的な都市を目指します」としており、これは終始一貫して変わらない。西宮の「文教住宅都市」には、長い歴史があることを理解されたい。</li> <li>・文教住宅都市を変える必要はないが、どのようなまちを目指しているのか分かるような、イメージがわかりやすいキャッチフレーズが必要。この計画は、行政を中心として、市民、企業、諸団体が協力して作成していくものにならないといけない。西宮市がどのようなまちづくりを目指しているのかを分かりやすく表現することを検討されたい。</li> <li>・第4次総合計画のキャッチフレーズは「ふれあい 感動」となっているが、これは前身の「であい ふれあい わかちあい」をさらに深めたものである。今回も、現行のキャッチフレーズを更に深められたい。</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教住宅都市西宮の歌」の歌詞からキャッチフレーズを引用することを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「住み続けたい街」を目指す!』のような、市民目線のキャッチフレーズを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市は、非常に環境が良いのが特徴だ。緑が多く、子供が伸びやかに育つ環境がある。そのため、「緑が多い」ことと、「文教住宅都市西宮」という今までのキャッチフレーズは、外せないと思う。その上に「創造」とか、「未来への輝き」といった言葉を加えても良いのではないか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会合や活動などにおいて、最近は依存志向の若者が多いと感じる。西宮をこれから自分たちの手で作り上げ、盛り上げていく中で、子供の環境や生活の向上を見出せるような、画期的で新しい目標を持たれたい。子育てのことについては依存志向を払拭し、人を育てる、お互いに支え合う西宮になって欲しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教住宅都市」という単語は非常に大切。それに加えて、イメージが湧くように、例えば「実感 共に生きるまち」とか「共に生きたいまち 文教住宅都市西宮」のようなシンプルなものが良いのではないか。若い方、壮年、老年の方々も実感できるようなイメージを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教住宅都市」を市民に広報できたり、あるいは市民が意識できるキャッチフレーズを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次総合計画の抜けている面を補いつつ、良い面を更に伸ばすという観点から、今までの延長線上でキャッチフレーズを考えなければならない。新たに設けるよりは、今まで使っているものを再度市民にPRすることが大切で、「文教住宅都市西宮」、「感動」というのは、キャッチフレーズとして生かされたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がつくる西宮ということで、キャッチフレーズに「市民」や「人々」という単語を入れて、皆でつくっているという意識をもっと高められたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまは幼児からお年寄りまで、小学校単位で様々な種目のスポーツが簡単にできるような体制になっている。いつでも簡単にスポーツができることが想像できるキャッチフレーズを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の西宮市が「文教住宅都市」の名にふさわしいまちであるかどうかは、議論する余地があるものの、キャッチフレーズには「文教住宅都市」という言葉を使いたい。市民が主体の「文教住宅都市」というイメージを持ったキャッチフレーズを検討されたい。</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>・西宮市に転居する前の市では、小学校の教室で交流できる場が設けられ、幼稚園にも園庭開放があり、図書館もビデオ貸し出しがあって、非常に便利であったが、西宮市では、そういう面で開かれていない印象を受けた。今後の期待をも込めて、キャッチフレーズに「開かれた」を入れることを検討されたい。</p>
	<p>・資料に載っている近隣市・中核市のキャッチフレーズを見ると、地名が入っていないキャッチフレーズは8つしかない。  「えびす顔のまち西宮」、「心地よいまち西宮」、「成熟した文教住宅都市西宮」、「みんな生き生き、未来にわくわく西宮」、「住み続けたいまち西宮」など、キャッチフレーズには「西宮」という地名を入れることを検討されたい。</p>
	<p>・地名が付いていないと、どこの自治体のキャッチフレーズかが分からない。「文教住宅都市」を掲げている西宮は非常にユニークだ。ユニークさに加え、分かりやすさを入れた、市民も一緒になって向かっていくようなキャッチフレーズを検討されたい。</p>
	<p>・西宮市は他市に住んでいる人から見ると、非常に良いイメージで「住みたいまちナンバーワン」と言われているのに、住んでからのギャップがあるのは、損をしていると思う。「文教住宅都市」という宣言をして、掲げ続けている大きな未来像は、非常に良いと思うが、現状はギャップがある。  今の時代、主役である市民の動向、トレンドとしては、自分ごとになることに対して非常に興味を持っているので、市民が自分ごとを感じられるような言葉を使うことを検討されたい。</p>
	<p>・西宮市は、高齢者の市民層の地域をつくる基盤がしっかりしていて、分厚いものがひとつあるものの、世帯の流動から分かるように、若い層が来ては去るといふ、固い地盤の上に水がさらさらと流れるような二重構造のイメージがある。この両者の融合が、地域づくりに向けて非常に必要なことだ。その固い地盤の上に、障害福祉が、市民、当事者、事業所、行政も含めて非常に高いレベルで取組を行っていた。また、地域の多様性を認めていく文化も一定程度根付いていた。さらに、環境政策が、子供を巻き込み熱心だという利点がある。そこの財産に加えて、教育や子育て、若い人の地域参加ができるイメージのキャッチフレーズにされたい。</p>
	<p>・西宮のみならず、全国的に単身化が進んで、孤立化の不安も大きくなっていく。皆で新しいつながりをつくっていくような市民自治についても、キャッチフレーズで言及されたい。</p>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>・これまでの行政計画は、行政が主語になっていたが、これからは主語を市民に変えなければいけない。団体で活動されている方は、住民参加がうまく募れないという問題を抱えており、それを克服するためのキーワードは「であい・ふれあい・わかちあい」であり、「みんなでわかちあい共につくる文教都市西宮」のように、主役は市民であり、みんなで協力し、一緒に取り組もうというキャッチフレーズを検討されたい。</p> <p>・大正から昭和初期にかけての西宮は、阪神間モダニズムが花開き、新しい文化や、今まで誰もやってこなかったものづくり出されたり、海外から入ってきたりするようなくわくするまちだった。もう一度、新しい文化や今までなかったものを創造して発信できるようなまちになればよいと思うので、「文」という言葉があるのは非常に良い。我々市民が生きていく中でここは文教住宅都市であるということ意識して生きていくことが重要だ。</p> <p>市の職員が個々の事業や計画をつくる時に、ここは文教住宅都市であるということ意識しながら計画されることによって、その積み重ねが市として全体の大きな流れを紡ぎ出していくと思う。そういった意味でも、キャッチフレーズは今まで使ってきた言葉がある程度、継続して使うことを検討されたい。</p> <p>・昔から文教住宅都市という言葉を使っていることは、それほど市や市民が誇りを持っていることだと思う。他市のスローガンでは、「輝く」や「ふれあう」とか、動きを象徴的な言葉として示しているものが多い。文教住宅都市という言葉は、経済学でいうところのストックである。オープンな、開かれた文教住宅都市をいう意見があったが、文教住宅都市の中身や、新しい展開をしているということを見せられる言葉があると良い。そうすれば、単にストックを誇っているということではなく、進化しているということを見せられるのではないか。</p>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>・昭和 30 年代は、都市において住むことと働くことは両立せず、どちらかと言えば産業は住宅から離れて、迷惑を掛けないところで、というイメージが強かった。そういう意味で文教住宅都市宣言は西宮らしいが、現代では産業と経済、ビジネスは住むことと一体化されている。文教住宅都市という言葉が、産業と経済を排除するイメージで使われるとあまり良くないだろう。西宮市には、文教住宅都市の変化の中で、経済的なメカニズムを組み込んでいくという意気込みが欲しい。例えば教育とビジネスが、学生が目線で融合を始めているような領域でも、西宮が日本に誇る活動が行われている。</p> <p>いろいろなところで新しい変化が起きており、何か動きを示されるような言葉がキャッチフレーズにあることを検討されたい。</p> <p>・西宮市は昭和 38 年に文教住宅都市宣言をした。その後、昭和 58 年に平和非核都市宣言をして、平成 15 年に環境学習都市宣言をした。これらを並べてみると、同じ都市宣言の中で、ひときわ目立っているのが文教住宅都市だと思う。これは、市民が認知し、守り、そして育ててきた結果ではないかと思っている。時代によって住宅都市の中身や施策、事業も変わってきているとは思いますが、基本の文教住宅都市を守っていこうということは変わらない。西宮も人口の入れ替わりが激しいが、そこは変わらない、普遍的な価値になっていると思う。</p> <p>キャッチフレーズは必要で、それに文教住宅都市西宮ということは外せないだろう。西宮は工業都市ではなかったため、他市のようなことにならず、大きなものを得た。産業面でも、西宮には西宮らしい産業がずっと続くことになったのだと考える。阪神間でこれほど海浜が残っている地域は西宮だけで、芦屋に少しあるものの、あとは須磨まで行かなければならない。自然環境を大切にしながら、産業の発展についても折り合いをつけてきた。この点についてはキャッチフレーズへ盛り込まれたい。</p> <p>・若い世代の流出を止めるためには、土地や住宅が多少高くても西宮の方が良いと思えることが、一目で分かるような計画にされたい。</p>
<p>将来像 1. まちや人の姿</p>	<p>・6 項目にわたる西宮の将来像が描かれているが、いずれも傍観者的に描かれており読み手の受ける印象は弱い。もっと主体的に描き、市民に対してもっと強い、はっきりとした行政の意思を表現したものにすることを検討されたい。</p>



該 当 箇 所	意 見 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチフレーズに各委員が挙げたキーワードのうち、入りきらなかった場合、「まちや人の姿」へ落とし込むことを検討されたい。また、計画をどのように機能させるかということについても、「まちや人の姿」へ入れ込んだ方が、縦割りではないことがアピールできて良いのではないかと。</li> </ul>
2. 都市空間形成の基本的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化調整区域や北部地域の将来像に関する記述が少ない。文教地区・郊外住宅地というイメージが強いと感じるので、全体的な市域の経営まで踏まえた、土地利用の概念も含めた計画とすることを検討されたい。</li> <li>・都市核・地域核とはなりえないが、阪急武庫川新駅についても記載することを検討されたい。この課題については、単に駅を新設するだけでなくアクセス道路や駅前広場といった公共インフラの整備が伴い、多額の費用が必要になるかも知れないが、市内部地域の交通不便地の解消のためにも取り組むべきものと考えらる。</li> <li>・主要幹線道路として国道2号・43号・171号などを挙げ都市軸と称している。これは個人市民を中心に考えるからこのような発想になるのであって、そこには企業市民という発想が不足しているように思う。市内には名神高速道路、阪神高速神戸線、阪神高速湾岸線、中国自動車道などがあり、また名神湾岸連絡線についても整備の方向が固まっている。これらの道路網も将来都市構想図の中に落とし込むことを検討されたい。</li> </ul>
3. 将来像の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行政マネジメントの基本的な考え方は（中略）、全庁的に定着してきています。」としているが、今の西宮市において本当に定着してきていると言えるのかは疑問である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちづくり評価アンケート」は市民を対象としたもので、企業市民の意見が反映されていない。アンケートの結果、期待度、満足度、ギャップ度が低い施策——例えば「都市型観光の振興」について、数値が表に出ることで、施策の必要性がないと捉えられる恐れがあるので、注意されたい。</li> </ul>

### 【基本計画（全般）】

該 当 箇 所	意 見 内 容
基本計画全般	・基本計画を策定する際は、施策分野別に縦割りになってしまい、横の連携が悪くなるので留意されたい。
	・孤立化や単身化が進む中での総合化は今までとは違う。各施策をきちんとつなぐことを検討されたい。
	・税込拡大の時代と違ってお金が減っていき、かつ住民側のサービスニーズが多様化していく中で、総花的な計画とするのではなく、どの施策を重点化するのか整理されたい。
	・全てが平均的な形でまとまっている。例えば、政策分野ごとにでも重要視している部分を記述することで、市民にとって分かりやすい計画にされたい。
	・抽象的な表現が多いが、「収支見通し及び事業計画」に書かれている事業については、具体的に記載されたい。
	・4次総の「まちづくり評価アンケート」の結果において、期待度と満足度のギャップが大きいところについて5次総で力を入れられたい。

### 【基本計画・アクションプラン（施策別）】

該 当 箇 所	意 見 内 容
1. 住環境	・現状、西宮は空き家が少ないということだが、今後は増えてくることが予想される。行政として、もう少し空き家の利活用の取組について記載を検討されたい。
	・ここ20年くらいで世帯構成が大きく変化しており、3、4人世帯が減り、1、2人世帯が増えている。そのため、建物はそのままでも、中に住んでいる人数は減っているといった状況である。減築をサポートする事業があれば、過密地域において空地を生み出すことができるのではないかと。
	・市が戸数をコントロールできる市営住宅について、集約することが本当に良いか否か、他市の動向を注視して進められたい。
	・北部地域における空き家の問題について、空き家の利活用など地域のことを生かしていく方法を考えられたい。
3. 景観	・大阪市では、御堂筋において大胆な広告物の規制を行おうとしているが、西宮市においても、特にメインストリートとなるところではそういった規制が行われると良い。
	・市の中では統一されていても、市境をまたいだときに、まちの雰囲気が変わることがある。市街地としては連続しているので、これがつながると良い。



該 当 箇 所	意 見 内 容
6. 子供・子育て支援	<p>・0～2歳児を育てる家庭への子育て支援体制として、地域子育て支援拠点を小学校区で整備すべきである。その際は、利用者支援事業もあわせて整備する。また、高齢者・障害者・子供が共有できる居場所づくりといった、多世代交流・地域共生型施設を構想することを検討されたい。</p>
	<p>・子育てについて、親（保護者）の力を上げる取組を検討されたい。未熟でない親（保護者）を育てることで子供への虐待も少なくなり、子供に対する愛情のかけ方も変わってくる。</p>
	<p>・乳幼児期の虐待防止について、施策分野 15「健康増進・公衆衛生」の取組内容③「母子保健の支援の充実」に妊婦面談の全数実施について記載があるが、本施策分野の取組内容④「子供の貧困対策や児童虐待防止の充実」の虐待防止には乳幼児を対象にしていないように思われる。書き方を工夫することを検討されたい。</p>
	<p>・市内のブロックごとの児童数の推移とニーズの把握を施策検討のベースとされたい。</p>
	<p>・目的について、「子供一人ひとりが健やかに育ち」と「安心して子供を産み育てる」の順番を逆にすることを検討されたい。</p>
	<p>・公立幼稚園の認定こども園化を検討することは不可避ではないかと思われる。</p>
	<p>・国が示す「市区町村子ども家庭総合支援拠点」を創設することを検討されたい。正規職員による構築が必須であり、市役所内のチーム機能を高める必要がある。拠点として場所が必要であれば、市役所コンシェルジュ機能の拡大、子育て総合センターの活用が考えられる。拠点については、行政機関の日常的な情報共有が必須であるため、市役所から分離することは好ましくない。</p>
	<p>・子育て世帯の転出超過については注視すべきであり、「子育てするなら西宮」のキャッチフレーズ通りではないという子育て世帯の声は高まっている。ハード面、ソフト面での自治体の努力不足の重なりが、利用者に「子育てしにくいまち」として伝わっているのではないか。</p>
<p>・子育て総合センターやこども未来センター等の整備により、子育てと発達支援の「センター機能」は整備されたが、センターへのニーズが高まり、結果的に利用不便（待機等）を招くこととなった。よって、今後10年はセンターを拠点としたアウトリーチ機能を整備することを検討されたい。アウトリーチの内容は、「専門職の派遣」と「プログラムの支援」である。地域子育て支援拠点等が小学校区で整備できれば、その支援機能とタイアップし、センターから地域拠点へのアウトリーチ体制の整備を目指すべきである。アウトリーチ機能が整備されることによって、</p>	

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>拠点において専門職派遣による人材育成が進むとともに、「予防・教育的」機能が整備され、センター型（相談・介入型）との連携がより円滑に進むようになる。</p> <p>・保育ニーズが高い地域において、小規模保育施設と、民間幼稚園及び公立幼稚園との連携を考えられたい。</p> <p>・北部地区、瓦木・高木地区の保育ニーズへの対応は計画的に検討されたい。保育所等の新規開設は、少子化と10年後の保育ニーズの減少を考えると慎重な判断が必要である。</p> <p>・民間幼稚園と教育委員会の協議により、公立幼稚園の機能改革を進めることを検討されたい。</p> <p>・利用者支援員（コンシェルジュ）を増員するとともに、人材育成を行うことを検討されたい。</p>
7. 学校教育	<p>・学力に課題がある場合は、貧困家庭であろうとなかろうとサポートするというのが教育委員会の立場ということだが、「確かな学力の向上に向け、教育格差の是正に努める」など記述することを検討されたい。</p> <p>・学校をなくすということは、地域にとって大きな出来事で、大きな衝撃を与えると思う。小学校は教育だけではなく地域がまとまる象徴なので、丁寧に考えられたい。</p>
8. 青少年育成	<p>・中高生の居場所づくりは必要である。どこかに盛り込むことを検討されたい。</p> <p>・取組内容③「留守家庭・放課後等の児童育成」に「子ども・子育て支援新制度基準を満たすよう留守家庭児童育成センターの整備を進める」とあるが、定員や面積に関することを具体的に示すことを検討されたい。</p> <p>・不登校や保健室登校の子が、学校以外に行ける場所を検討されたい。公民館や気軽に集えるカフェのような場所で、定年退職した方々などと、世代を超えて趣味のようなものを共有することができればと思う。</p> <p>・駅前などの施設に中高生が集まれる場所を検討されたい。図書館・運動施設・音楽施設等、阪神甲子園駅や西宮北口駅は中高生の交流地点でもある。</p>
9. 地域福祉	<p>・少子高齢化による地域の担い手の減少する一方で、一般就労がかなわない人たちの層が増えており、地域の中での仕事づくりが、地域活性化とともに役割づくりにもなる。この好循環が発展すればコミュニティビジネスにもなりうるものであり、このような拠点を西宮に作り、ワンセットの概念で進めることが福祉の総合施策となるので、記述を検討されたい。</p>
11. 障害者福祉	<p>・就労継続支援A型には、事業所の突然の閉鎖による大量解雇などの問題があるので、こういった計画が絵に描いた餅に終わらないか心配である。</p>

該 当 箇 所	意 見 内 容
12. 生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV被害者の支援について、支援や自立のための情報提供のほかに、経済的自立を促す就労支援についても記載することを検討されたい。</li> <li>・社会から孤立している人に対する就労支援には、身だしなみの支援なども必要となる。実際にお金を稼げるようになるまで長いプロセスがあるので、単に職をつなぐといった点にとどまらないように気をつけられたい。</li> <li>・生活困窮者自立支援法に基づき、市は寄り添うと言っているが、少ないスタッフで本当にできるのか疑問である。本来の趣旨を生かせるよう取組内容の記述も検討されたい。</li> </ul>
14. 医療サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容③と④に対応する「現状と課題」の記載順序が逆になっているので、統一されたい。</li> </ul>
17. 生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現状と課題」の最後に「学校施設の有効活用などの連携を図っていく」とあるが、直前に「地域交流の場を提供している」との成功例が書かれていることから、「更なる連携を図っていく」とすることを検討されたい。</li> <li>・「地域人材の活用」という言葉が生涯学習の中で出てくるが、その前段として、地域にどんな特技をもった人材がいるかの情報を把握できていない実情がある。個人情報保護の観点から情報提供できない場合もあり、今後の課題である。</li> <li>・「現状と課題」に「子供の発達段階に応じた読書活動を推進する」とあるが、読書に興味のない子供たちへのアプローチとして、例えば西宮市を舞台にした小説を紹介することで、本に触れるきっかけにするのはどうか。他にも、映画の原作を紹介したり、学校においても読書感想文を学校が指定した本ではなく、自由に選ばせたりするなど、読書を推進する具体的な方法をもっと挙げることを検討されたい。</li> <li>・学校教育でも社会教育でも、今は民間部門においても機能を有しているので、市がどこまで何を行うかの役割を明確にされたい。</li> <li>・生涯学習には、学校教育と社会教育を含むとのことだが、学校教育は独立した施策分野になっているのに対し、社会教育はそうではない。学校教育同様、1 施策分野として独立させるか、生涯学習の中にも含むにしても社会教育というものをもっと強調することを検討されたい。</li> </ul>
18. 文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現状と課題」に、ホールの指定管理者がコンサートや屋外でのアート事業を実施しているように受け取れる記述があるが、誤りではないか。</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現状と課題」に、「西宮市文化振興財団、西宮市大谷記念美術館や西宮芸術文化協会等の芸術文化団体と連携し」とあるが、この表記だと全てが芸術文化団体であるように誤解される恐れがある。また、その後の「市民の自主的な芸術活動を支援する」主体についても誤解されないよう表記を工夫されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立芸術文化センターについて、県との連携を通じて、市の音楽芸術や舞台芸術などへの活用を進めることを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容①「文化芸術にかかわる人材への支援」に記載の「「する人」を育む取組」で、発表の場や活動の場について具体的に記述することを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容②「文化芸術の浸透」は、「文化芸術の振興」という言葉が適切と思われる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容②「文化芸術の浸透」について、船坂ビエンナーレのように廃校を利用して芸術家が活躍する場をつくるための橋渡しを市が担うことを検討されたい。商店街の空き店舗なども活用できるのではないかな。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容②「文化芸術の浸透」の中に「西宮市展の充実」とあるが、現在は「充実」という段階ではないと感じる。「見直し」とすることを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容③「文化芸術施設の整備」について、整備をする前に、市民ギャラリーの稼働率向上や空調の整備について検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護法が改正され、保存だけでなく活用を積極的に考えていかなければならない時代となった。熱心に勉強しているNPO、ボランティアの方々の考えや力をどう生かしていくのか検討されたい。</li> </ul>
19. スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現状と課題」に「サービスの向上を図っており、(中略)市民ニーズを反映したスポーツ施設の運営を行う必要がある」という文章があり、違和感がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一流の選手が競技できる施設があることは大変すばらしい。子供の夢の創出にもつながる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、西宮では一流の体育館、競技場を整備しようとしているが、ハードウェアにとどまらず、充実したソフトウェアやヒューマンウェアをパッケージにして、西宮市のクオリティーの高いスポーツ施策を計画し、推進することを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者育成のための講習会を、大学で競技をしている人たちと一緒にすることを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体育館について、現在は現地建替えて計画が進められているが、いまだにアサヒビール工場跡地に建つと誤解している方もいるかもしれないので、その点について何か記述することを検</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建て替えを予定している中央体育館は駅から離れており、駐車場が不足するため、大きな大会を開催すると利用者が不便を被っている。体育館へのアクセス改善が今後の課題である。</li> <li>・現在、小学校区ごとにスポーツ推進委員が配置されており、幼稚園から老人の方を対象にいろいろな種目のスポーツ指導を提供している。また、体育協会等による講習会や選手育成を行っている。指導者はボランティアに頼っており、今後の人材確保が心配される。</li> </ul>
20. 都市ブランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた記述スペースの中で、西宮の野菜のように、「現状と課題」に「農産物」と記載されているだけの項目があるので、本施策分野で取り上げる項目についてメリハリをつけることを検討されたい。</li> </ul>
21. 大学連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学連携を進めることで、学生が西宮と接点を持ち、西宮に住みたい・働きたいと思えるような情報共有が地域とできると、西宮の発展につながる。その構図をつくることを検討されたい。</li> <li>・野外文化事業において、地域の小学生とイベントに取り組んでもらうことを大学側に働きかけているが、うまくはかどらないケースがある。大学と地域との連携については課題がたくさんあると思う。</li> </ul>
22. 産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、新聞で女性の約70%は働くようになっているという記事を見て、格好良く働く女性のイメージを西宮の将来像でつくれると、西宮のブランドイメージとうまく重なる気がする。他にも、大学と連携したイノベーティブなビジネスが起業・創業のところで結びつくという構図を検討されたい。様々な接点が「産業」にはあると思う。</li> <li>・市内の、特に中小企業と行政の情報共有を検討されたい。事業用地を拡張したい企業への手助けにもつながるし、災害が起きた際の国からの情報伝達も、平時から伝達経路が確立していれば、円滑に対応することができる。</li> <li>・取組内容③「起業・創業の裾野の拡大」について、1行目が「住宅都市」「大学の多いまち」の順で記載されているのに対し、2行目は「学生」「女性」「高齢者」の順での記載となっている。順を揃えることを検討されたい。</li> <li>・昔のように産業が公害の象徴のようなものではなくっており、これからの大きな流れの中で、西宮の中に働く場所が組み込まれていくことは大事なことだと思う。</li> <li>・卒業後、首都圏で就職する学生がかなり多い。本当は関西で勤めたいが職がないので東京へ行くという学生が少なからずいる。大企業は東京へ進出する傾向が続いているので、夢を持った若い人たちが起業できるような仕組みをこの中で考えてはどう</li> </ul>



該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>か。西宮市が起業を応援する、西宮市では仕事を持ちつつ子育てができるということを、明確なメッセージとして出すことを検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮に自分の求める職種があれば、隣近所の人顔が見えて安心できる地元に住み続けたいという若者も少なからずいる。企業誘致は簡単にはできないが、対応策を検討されたい。</li> <li>・大型ショッピングセンターが、特定の地域に固まりすぎており、北部の住民は買い物に不便している。</li> <li>・本計画と、策定中の第3次産業振興計画とで、記載されている項目に差異が見られるので、整合を図られたい。</li> </ul>
23. 農業・食の流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卸売市場について、一度イベントで見学をしたことがあるが、平時からもっと開かれた場所になれば、市民の意識が変わると思う。</li> <li>・中学生のトライやるウィークのように、一般市民向けの農業体験の機会をつくることを検討されたい。都市部から近いこともあり、需要があると思う。</li> <li>・野菜の直売所について、詳細を一覧にしてPRされたい。</li> </ul>
24. 就業・労働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西宮市の就労人口の約4割が市内で就労し、約6割が市外で就労している。市内で働く市民の割合を増やそうにも、受け皿がないため難しい状況である。これが課題だと思う。また、大学生が約36,000人いるということだが、同様の理由で大学卒業後に市内で就職する者は少なく、大多数が県外に出て行ってしまふ。</li> </ul>
26. 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理施設の整備を今後行うとあるが、小・中学生の社会見学への対応等、環境教育面にも配慮されたい。</li> <li>・災害廃棄物の一時保管について、近隣市と連携する等の考えを示されたい。</li> </ul>
27. 水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武庫川が氾濫しても、直接の水源ではないため水道に影響はない（断水しない）とのことだが、市民はあまり知らないの、安心した水道の展開という面で、何らかの広報を検討されたい。</li> </ul>
28. 下水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の避難所におけるトイレについて、使用できなくなった際のバックアップ機能を検討されたい。</li> <li>・透水性舗装を進め、排水施設に雨水が流入する量を減らされたい。</li> <li>・新設だけでなく、ハザードマップの浸水想定区域内にある既存の上下水道施設・設備について、万が一起り得る災害に対しても可能な限り改善や対応を進められたい。</li> </ul>
29. 道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県道82号は歩道が狭く、住宅が道路際いっぱいまで建てられており、歩行者にとって非常に危険である。また、踏切により車が渋滞する。</li> <li>・歩道の環境整備について、東京都で施工されている保水性舗装や街路樹、民の土地の道路際に緑を持ってくるといった手法に</li> </ul>



該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>より、特に猛暑時において歩行者が歩きやすい空間にしていくことを検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年 9 月の台風 21 号による暴風の被害として、市内ではたくさんの倒木があった。その備えとして街路樹等の樹木診断をきちんと行い、根腐りがいないかの確認をするとともに、根はりの浅い樹木を植えないようにされたい。</li> </ul>
30. 防災減災	<ul style="list-style-type: none"> <li>温暖化が進む中、小学校の校舎にはエアコンが完備されたようだが、避難所として使用される体育館についても設置を検討されたい。</li> <li>緊急時の情報発信について、なかなか想定通り全ての人に情報が行き届かないことが懸念される。</li> <li>今後、北部地域に人を呼び込むにも、災害時に孤立するのでは PR の足かせになってしまう。</li> <li>災害時の要援護者については情報の取り扱いの難しさがあるが、仕組みづくりを是非進められたい。</li> <li>スマートフォンアプリやドローン等の新しい技術について、西宮市の防災・減災に合うものをうまく取り入れられたい。</li> <li>津波避難が必要な地域や、土砂災害の警戒が必要な地域を中心に地域版防災マップを作成しているということだが、関係する一部の人に対する情報にとどめず、誰もが見ることができるよう広く活用されたい。</li> </ul>
31. 消防	<ul style="list-style-type: none"> <li>AED の設置や救急救命講習の実施などを推進されたい。</li> <li>消防団の育成や活性化について計画に盛り込まれたい。</li> </ul>
32. 地域防犯・交通安全・消費者安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>ただ防犯カメラを設置するだけでは監視社会になってしまう。住民の見守る目も合わせて、地域の防犯力を高められたい。</li> <li>防犯カメラは市が設置するものよりも多くの台数が民間により設置され、警察において活用されているように、まちの安全を公民で連携して守っていることも計画に記載されたい。</li> <li>防犯カメラの設置・運用についてはどかが管理して、だれが協力しているかというのをもう少し明確にされたい。</li> <li>警察の管轄かもしれないが、主要交差点においては歩車分離信号の導入を進められたい。渋滞を招くかもしれないが、人命優先の考えでお願いしたい。</li> <li>歩行者、自転車の携帯電話操作を含めたマナー違反による事故、トラブルが急増している。条例で罰則を設ける、保険加入を義務付けるなど、何か方向性を打ち出されたい。</li> <li>高齢者を狙った電話による詐欺については、流出した名簿などをもとに次々に電話をかけているといった状況もあるので、現在発生している詐欺の情報が共有できれば、被害を防ぐことができるのではないかと考える。</li> <li>通話録音装置の無料貸し出しについては、要件をもう少し緩和</li> </ul>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	されたい。
33. 住民自治・地域行政	<p>・「現状と課題」の最後のパラグラフについて、文章が長すぎて読みにくい。「地域の拠点として存続させることとしている」で区切ったほうが、主述の関係がはっきりする。</p> <p>・学校施設の活用については、教室不足の学校もあることを踏まえて検討されたい。</p> <p>・市民集会施設については、市から補助金を受けて建てられているので、もっと自由に地域に開放してもらいたい。</p>
34. 行財政	<p>・今のままでは一部の地域のみ人口が集中していってしまう。北部や臨海部も居住地の選択肢にあがるように市もPR等の手立てを講じられたい。</p> <p>・取組内容①「長期計画の策定・推進」について、「20～30年後のまちの将来像を考える」とあるが、そのころには団塊世代の人口が減少するなど、人口構成も変化し、違う社会になると思われる。それまでの間、どのように運営していくかを検討することが重要である。</p> <p>・取組内容②「広域連携の推進」については、市民の合意形成をしっかりとった上で取り組まれたい。</p> <p>・取組内容⑦「シティプロモーションの推進」について、ICTの活用や市民の情報を活用するシビックテックといった視点を採り入れることを検討されたい。</p> <p>・取組内容⑦「シティプロモーションの推進」について、西宮コモンズに、民間で西宮の情報発信を行っている外部サイトをリンクすれば、より内容が充実すると思う。</p> <p>・取組内容⑧「広報力の強化」について、子供版市政ニュースを検討されたい。子供がイベントなどの情報を自分で見ることができてよいと思う。</p> <p>・取組内容⑧「広報力の強化」について、市政ニュースのほかに、もっと子供からお年寄りまで万人が興味を持って読むことができる情報誌のようなものを制作することを検討されたい。</p> <p>・取組内容⑧「広報力の強化」について、市政ニュースは確実に市民の手元に届くので、他の文書も市政ニュースに合わせて配布することを検討されたい。</p> <p>・取組内容⑧「広報力の強化」について、町内の回覧板は有効なツールであるが、書体やデザインなど、注目を集めるための工夫をされたい。</p>
35. 執行体制	<p>・取組内容③の検査については、専門の職員をどこまで確保できるかという問題があり、民間に委ねるところもある。どの形がよいのか検討されたい。</p> <p>・取組内容③の入札については、競争入札が原則だが、どうしても随意契約が残ってしまう部分の整理が必要となる。また、競争</p>

該 当 箇 所	意 見 内 容
	<p>入札でも従来の単純な価格競争入札ではなく、総合評価やプロポーザルといった方式によって、品質を担保するようなことを今後の方針として確立されたい。</p>
	<p>・取組内容⑤に「ホームページの定期的なリニューアル」とあるが、市のホームページは見やすさにバラツキがある。更新時に統一することを検討されたい。また、パソコンが使えない高齢者への情報発信についても配慮されたい。</p>
	<p>・取組内容⑦「歴史資料の保存と公開」に、「公文書館的施設の整備を行う」とあるが、単に歴史資料を保存するだけではなく、何を歴史資料とするかという観点が重要であり、公文書をどのように保存していくかについて議論されたい。</p>
	<p>・議会との関係もあるが、内部統制については、議会選出の監査委員の廃止もできるので、そのことも含めて検討されたい。</p>
	<p>・内部統制に関する「現状と課題」の記述で、「監査制度の強化を進めることとなった」とあるが、「進めている」や「進めていく」などの表現に文言修正することを検討されたい。</p>

【地域別アウトライン】

該 当 箇 所	意 見 内 容
地域別アウトライン全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって課題が異なるので西宮市全域で同じように施策を進めるのは難しい。いくつかの大きなエリアを土台にして考えると課題が見えてくるのではないか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北部地区と同様に南部地区の課題も注視すべきではないか。特に鳴尾（高須）と本庁南西（西宮浜）は人口減少が確実で、10年後を見据えた場合の議論をされたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全地域の共通課題として「地域ケア会議の推進」が挙げられているが、他に比べて具体的すぎる。例えば、「共生のまちづくりの推進」や「地域ネットワークづくりの推進」等とすることを検討されたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予定している主な取組」において、いずれの地域においても防災が挙げられているが、特定の項目のように位置づけられるものではなく、福祉や経済などあらゆる項目と密接に結びついているものであり、そのことを踏まえた幅広い記述を検討されたい。</li> </ul>
本庁北東地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちの状況」が、現在でなく、何十年も前の状況を書いていると感じる。ニテコ池周辺や夙川学院跡地にはマンションが建設され、甲山が見えなくなったという団体もいる。また、北部を行き来する車両が多くなり、交通安全上の課題がある。夙川沿いの生活道路は、抜け道になっており、車両が狭い道路を速い速度で走っているため、事故が多発している。</li> </ul>
甲東地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「河川（武庫川・津門川）の洪水の危険性がある地域があり」とあるが、地図に津門川が記載されていない。</li> </ul>
塩瀬地域 山口地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療サービスの広域的な連携」が抽象的であり、「近隣都市との連携」という表現にすることを検討されたい。</li> </ul>